

ホームページの情報を基に このように会話を展開しよう

取引先のホームページに載っている情報から、どのようにトークを展開すれば会話が盛り上がるのかを解説する。

- ①～③ 金指光伸
- ④～⑥ 岩瀬万里夫

1

特徴的な社名

社名の由来や命名時のエピソードに加え 家族の反応も確認

人

であれば会社であれ、名前には「名付け親」がいる。「いつ名付けたか」といえば、人なら産まれたとき会社なら創業したときだ。人の名前は大抵、親が決める。では、社名は誰が決めるかといえば、創業者（社長）である。皆さんが創業社長に社名について聞いた場合、社長は「自分がつけた名前」について聞かれたことになる。それが嫌なはずはない。しかも、社名がユニークで特徴的であれば、社長は様々

なアイデアを巡らせ、複数の候補の中から、それが最も面白いと思って命名している。だから、その由来や命名のエピソードを話したくて仕方がないことが多い。

独立・創業時の苦勞話が聞けることも

例えば、「社長、シュガー商会とはどういう由来なのですか?」と聞くと、「私が佐藤だからだよ」といった答えが返ってくる。こういう命名の仕方は結構多い。「なるほど」という話だが、もう少し突っ込みたい。

「その名前にしたいと言ったとき、奥様はどんな反応でしたか?」と聞けば、「あなたはシュガーというよりソルト（塩）だって笑われたよ」といった返答があるかもしれない。ユーモアのある奥様だということが推察できるし、場の空気も明るくなる。

「アルバトロス物産」という社名の由来について、「ゴルフのバーディ、イーグル、アルバトロスのアルバトロスだよ」という答えが返ってきたなら、「社長はアルバトロスを達成されたことがあるのですか?」と、ゴルフの話に展開することもできる。

「どんなときに思いついたのですか?」と聞けば、「会社を辞めて独立の準備をしていたころ、忙しくてゴルフをする余裕がなくてね。そんなときにアルバトロスを達成する夢を見たんだ」といった独立・創業時のエピソードが聞けるかもしれない。

社名の由来、いつ・どうやって思いついたのか、家族や周囲の反応、お客様からの評判、その名前で得したこと——などを聞けば、社長は喜んで答えてくれる。社名は、盛り上がること請け合いの話題なのである。

